



JASWHS 公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会

Japanese Association of Social Workers in Health Services

令和4年3月31日 第11巻(第3号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

巻頭言 2022年3月11日に寄せて

1. 東日本大震災から11年目の3月 石巻にて
2. 10年間のソーシャルワーク実践活動検証プロジェクトからの報告
3. 災害支援チームからのお知らせ
4. 災害支援ニュース発行のお知らせ

編集後記

東日本大震災支援 石巻現地職員を急募 !!

- 石巻市において被災者生活支援を行う相談支援専門員 -

詳細は当協会ホームページの求人情報欄をご覧ください。

新型コロナウイルス 終息を期待して

最大限の予防はマスク・消毒・手洗いの継続です。

◇ 巻頭言

2022 年 3 月 11 日に寄せて

石巻事務所 現地責任者 福井 康江



＜ 2022 年 3 月 11 日 大川竹あかり ＞



＜ 2022 年 3 月 11 日 日和山より臨む、中瀬の風景 ＞

東日本大震災の主な被害状況(2022 年 2 月 28 日現在 河北新報調べ)

直接死 15,900 人 関連死 3,786 人 行方不明 2,523 人

福島第一原発事故による避難者等 22,200 人

石巻市では、新しく整えられた南浜津波復興祈念公園内の慰霊碑前で追悼式が開かれたが、政府主催の追悼式は昨年が最後となり、被災自治体の多くは今年から祈念行事などを縮小したとの報道があった。そのような影響か、昨年より静かな一日になったと感じた。

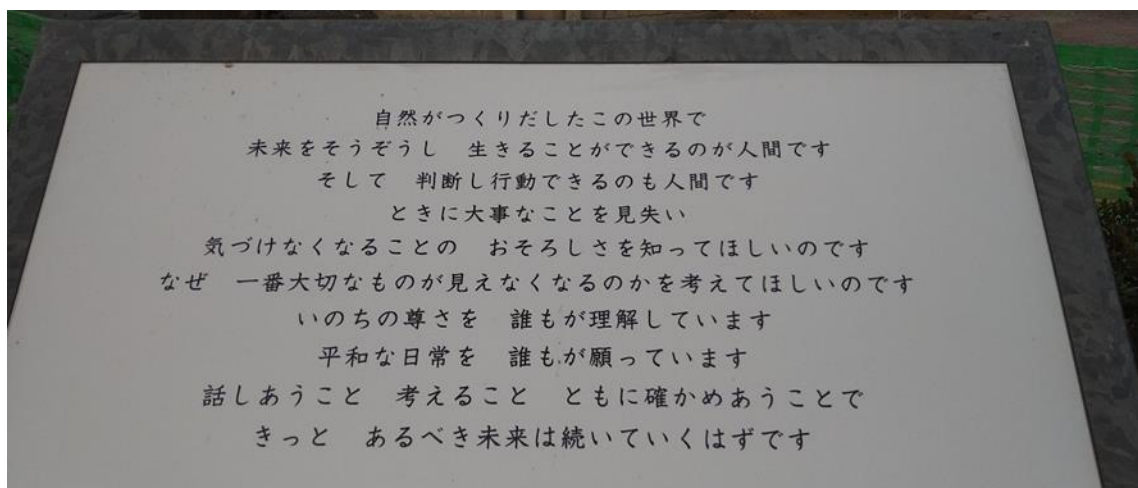
また、私の周りでは普段通り粛々と業務を担う方々が多く、この日をどう過ごすのか、どのような日として意味づけるのか、いよいよ一人一人が自分で決める時期になったのだと思う。今年の 3 月 11 日の報道では、特に、未来、築く、刻む、つなぐ、の文字が使われていたことが印象に残ったが、私たちがどのような未来を望み、そのためにこの度の経験をどう生かし伝えてゆくか、そのことを強く意識する日となった。また一歩新たな時に進んだことを感じた。



〈 2022 年 3 月 11 日 大川竹あかり 〉

私の中ではつながっていることだが、少し話を変える。自然災害でなく、人災である戦争で避難所が必要になることを心から痛んでいる。そして災害での被害を一瞬ではるかに超えてゆく戦争の恐ろしさに身体が震えた。この地で感じてきた、とりかえしのつかないやるせなさや後悔を、今後どれだけの人々が抱えることになるのだろうか。考えるほどに無力感に苛まれている。

今年、震災遺構大川小学校の追悼行事「大川竹あかり」に参加した。点灯前に着いたので、久しぶりに少し敷地内を歩いてみたのだが、その中で一つの言葉を見つけた。今ここで改めて得た言葉に深く深く感じることとなった。どんなに願っても、どれだけ渴望しても取り戻せないものがあることを知っているからこそ、その言葉は一人で抱えることができないほど重い。今を生きる私たちは何ができるのだろうか、何をしなければならないのだろうか。それを幼い子供たちから教えてもらったように感じた。



〈 石巻市大川小学校敷地に刻まれたメッセージ 〉



〈2022年3月11日 祈りと共に：日和山より臨む、石巻湾・南浜町の風景〉

アドバイザー 西田 知佳子

2011年3月11日から11年目の3月、石巻の町並みは冷たい風が吹いているが陽射しは春を感じさせるぬくもりがあった。平日の日中、石巻の繁華街の人通りは少なく、コロナ自粛のせいかな、と思いつつ、新しくできた高級そうなマンションを眺めながら、復興住宅を訪問した。本日の訪問は、石巻市から委託された健康調査のフォローアップである。昨年秋に行われた市の健康調査のフォローで、電話だけでは十分話がきけなかった方にお会いしてお話を伺った。震災で職も自宅も失い、復興に力を尽くす中で病を得、奥様も体調を崩され、そのような環境の中でも「復興住宅には自分より年上の人が多い、自分が動かなければ誰もやってくれない」と自治会の仕事を積極的に引き受けているその方は、「(独居の方で)2回訪問してもドアが開かないときはその家のケアマネジャーに連絡をして、大事になる前に手を打っている」とおっしゃった。ご自分も疾患を抱え不安だろうに、その方の玄関には箒や塵取りスコップまでもが整然と並んでいた。長く続く廊下には塵一つ落ちていなかった。私には聞き取れない方言が混じった言葉で早口で福井さんに復興住宅内の出来事を話し、福井さんは彼の話に時々言葉をはさみながら熱心に聞いていた。

福井さんが「次は渡波に行こう」と半島方面に車を飛ばす。海のにおいがしてきた万石浦で、ホタテの大きな貝殻が何枚も連のようにつながって幾重にもおかれているのが目に入った。調

べてみると、これは原盤といって牡蠣の赤ちゃんを捕まえる採苗器だった。ホタテの貝殻に小さな穴をあけ、2メートルぐらいの針金を通し「殻さし」と呼ばれるホタテ貝殻の連を作り、それを7月・8月の牡蠣が放卵する時期に海に投げ入れるそう。一つの連に大体70から80枚の貝殻がつながっている。

渡波には平屋の復興住宅が広がっていた。庭が玄関の横についていて日当たりもよさそうだった。残念ながら訪問した独居の方はお留守で、留守番の犬が盛んに啼いていた。万石浦でも渡波でも人にすれ違わない、というより歩いている人を見かけない。寒かったが、日が射していて石巻の冬としては暖かい日であったにも関わらず、人を見かけなかった。復興住宅も空いてある家がいくつか目についた。石巻中心部から車で20分、いくつかの訪問を済ませ、中心部に戻るその往復で路線バスに全く出会わなかった。路線バスは1～2時間に一本ぐらい走ってはいるようだが、車がなくては生活ができないこの地域に住む高齢者はどのように生活をしているのだろう。高齢者が動きたいときに動ける手段がない生活の不便さが気になった。

事務所のある場所は石巻の中心部で、大きなスーパーが目の前にあり、生活に不便を感じないが、町から少し外れると、車がないと生活しにくい場所になる。震災前の石巻の様子がわからないが、長い年月をかけ生活を営む場所が作られてきた地域が、一瞬にしてなくなって、総力を尽くし復興住宅を作り営みを再現しているが、以前の姿には戻らない。仕方のないことであるが、便利でない場所の復興住宅に住んでいる高齢者はどのように感じているだろうか。11年目を迎えた3月、石巻で感じたことである。

2. 10年間のソーシャルワーク実践活動検証プロジェクトからの報告

東日本大震災被災地石巻市における 10 年の

ソーシャルワーク実践活動検証プロジェクト活動報告Ⅲ

文京学院大学人間学部人間福祉学科 平野 裕司

日本医療ソーシャルワーカー協会 災害支援チーム

公益財団法人みずほ福祉助成財団から助成を受け、「東日本大震災被災者支援におけるソーシャルワーク機能の縦断的調査研究～被災障害者支援に焦点をあてて～」を 2020 年度・2021 年度と行いました。

被災三県（岩手、宮城、福島）沿岸部の 27 市町村を対象に行われた調査によると、総人口に占める死亡率は 1.03%であるのに対して、障害者の死亡率は 2.06%でした（2012 年 9 月 5 日 NHK E テレ）。石巻でも同様、障害者の被災に伴う死亡率は高く、災害が発生した時にどのように避難をするのか、災害関連死をどのように防ぐのかは重要な問題となっています。

表 1：東日本大震災における石巻市の障害者の被災率

町村名 (沿岸部)	住民数及び被災死亡率			障害者手帳取得者数（2011年3月1日現在）と障害者手帳者の被災死亡数（2012年2月末）及び死亡率											
	住民数	死亡者数	住民 死亡率	障害者合計			身体障害			知的障害			精神障害		
				手帳者数 計	死亡者数 計	死亡率	身体障害 者手帳者 数	死亡者数 計	死亡率	療育手帳 者数	死亡者数 計	死亡率	精神保健 福祉手帳 者数	死亡者数 計	死亡率
	2011年3月 1日	2012年3月 6日													
石巻市	160,394	3,182	2.0%	7,683	402	5.2%	6,089	351	5.8%	1,105	28	2.5%	489	23	4.7%

そのため、普段から障害者が地域で自立した生活をおくることが可能となるように各種サービス（働く場、住まい、相談を含む人的な支援体制など）を十分に整備しておくことや、本人を含め家族・地域・支援者で個別避難計画を検討し、フォーマル・インフォーマルなソーシャルサポートネットワークを構築する必要があります。

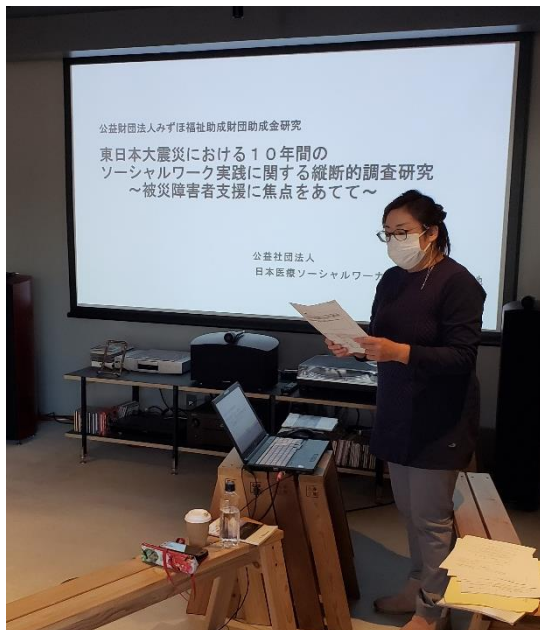
今回行った研究では、当協会が東日本大震災被災地石巻の福祉避難所の支援に入った 2011 年 4 月 2 日より、以後 10 年間行ってきたソーシャルワーク支援の記録、全 1047 ケースのうち、障害者に対象を絞り、障害者支援のためのソーシャルワーク実践のあり方を明らかにすることを目的としてまとめました。

本研究をまとめる過程では、石巻市役所で当協会活動にご尽力いただきました方、石巻市社会福祉協議会の職員の方にインタビューを行いました。また、2021 年 12 月 23 日はグループインタビュー、2022 年 1 月 8 日にはグループディスカッションを行い、当協会のこれまでの活動内容を振り返るとともに、今後の活動のあり方に災害時ソーシャルワーク実践のあり方について検討しました。



2021 年 12 月 23 日 社会福祉協議会の職員の方へのグループインタビュー

当協会から出席 会場にて 大橋アドバイザー、福井現地責任者
オンラインにて 笹岡統括、西田アドバイザー、平野



2022 年 1 月 8 日
グループディスカッション風景



2022 年 1 月 8 日
大橋アドバイザーによる総括講義風景

最後になりますが、製本ができましたら是非、皆様ご一読をお願いします。また、第 70 回 公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会 第 42 回 日本医療社会事業学会（和歌山大会）シンポジウムで報告予定となっております。

4. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』

の販売を行っています！



発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』に、2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この5月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014年4月から2016年3月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタン I :URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB ID@=45

ボタン II : URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50

ボタンIII:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

ボタンⅣ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【2. facebook】



現在不具合のため、

当 facebook への情報掲載は休止中です。

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定

令和4年6月

◇ 編集後記

事務担当 金子 小夜子

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から 10 年が過ぎました。遊楽館避難所生活から仮設住宅入居へ、そして復興公営住宅入居へと被災された方々の生活状況は変化していきました。当初から石巻市を中心に支援活動を継続し 11 年目になりましたが、復興公営住宅入居までは幾多のボランティアの方々にも共に支援活動していただきました。

被災された方々が日常を取り戻すためには膨大な時間が必要でした。しかし、自然災害の脅威は止むことはありません。新型コロナウイルス感染も災害と同じだと思います。

自然災害の発生は予測できないかもしれませんが、心の準備だけはしておきたいものです。

.....